

廃止扱いとなってもおかしくない大造成。そこに改めてポストを設置して、こうして今もコースを楽しめることは、ファンとして嬉しい限り

笠間(さしろ)コース 茨城県 No.56  
JOA 公認 No.282 10 km 9 ポスト

## 魯山人になれるまち

茨城県のほぼ中央に位置する笠間市。関東ではお隣り栃木県の益子と並び、焼きものの里として知られています。

平成4年には国から伝統的工芸品(伝産法)の指定を受け、継承技術の維持発展に力を注ぎ、美食家としても知られる陶工・北大路魯山人にあやかり、最近では「魯山人になれるまち、かさま」というキャッチコピーを掲げた町おこしキャンペーンも展開しています。

そんなこの地にパーマネントコースが誕生したのは昭和50年2月のこと。丸30年の歴史を持つに至っています。その間、開発に伴い97年に地図改訂のうえコース変更がなされています。開設当初は現コースからさらに大きく東側を巡っていた本格コースでした。笠間城へ向かう終盤の山道は緊張感満点で、回りごたえ充分。私も昭和62年、高校在学時代に一度回る機会がありましたが、ゴールドウィークに毎年開催されているつつじ祭りの真っ最中で、祭り会場内にあった最終ポストへは入場料を支払って到達した思い出があります。

2代目となる現在のコースはといいますと、東側がカットされ、以前の半分のエリアを巡る平易な設定となりました。経験者にはやや物足りなさを感じるかもしれませんが。スタート地点は2ヶ所。これまで通りの「佐白山麓公園」と、笠間駅から国道355線を東へ歩いて20分ほどの「笠間民芸(笠間焼きプラザ)」。今回は、新設された笠間民芸から歩き始めることにしました。ちなみに、佐白山麓公園をスタートとするコースは、笠間民芸スタートのコースをの順に回ります。

梅雨明け宣言されながら、最高気温

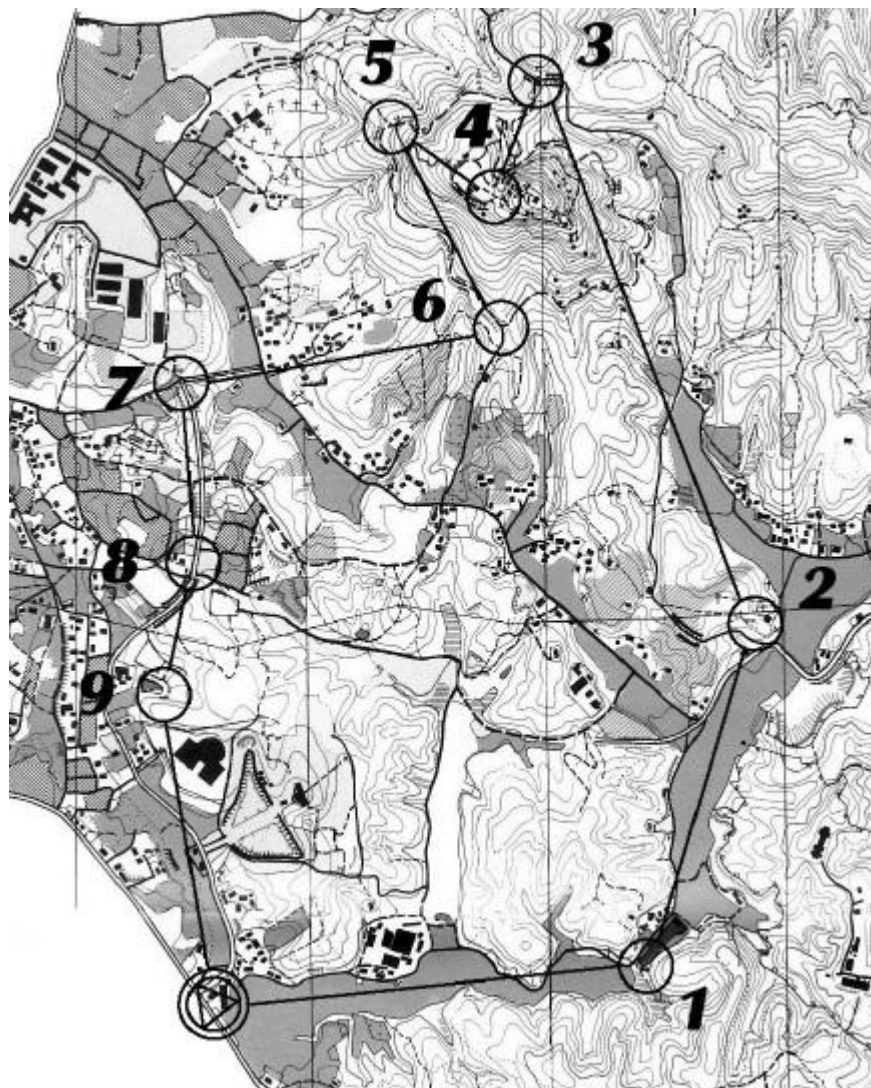
27度という比較的涼しいこの日。13時5分にJR水戸線笠間駅に到着。笠間市中心部への玄関口にもかかわらず、平日ということで観光客の姿もなく、閑散とした雰囲気にもまれていきます。めぼしい店も見つからず、「駅前で腹ごしらえをしてから」という思惑も叶えられぬまま、線路に沿って東へ歩き始めました。交通量の多い主要道路ですので、注意が必要です。

## 「笠間民芸」から出発

スタート地点の「笠間民芸」は「笠間工芸の丘」へ向かう道との交叉点のすぐ横。「笠間焼きプラザ」という大きな看板が目印です。早速マップを請うと、すぐにカウンターの下からマスターマップと一緒に取り出してきてくれます。外に案内板は設置されていませ

ん。マスターを確認していると、店主から「この前回った人が1つ見えないのがあったと言っていた」との話。しかし、最近ここを訪れたPC仲間からはポスト完備と聞いていたため、特に気にせずまずは2階のレストラン「麵々亭」へ。昼時ながら、150名収容できる広い店内に客の姿はなく、貸し切り状態。一人悠々と950円のミニ天丼定食をかき込み、13時55分にスタート。

18年前に訪れたときには丘に沿った里道だった第1ポストへのルートは、平成11年に「芸術の森公園」が整備されたことで、今はフェンスを見ながら歩く舗装道路となっています。そんな道をまずは東進。途中、旧第3ポスト付近を通過するため、ちょっと寄り道をしてみましたが、すっかり様相が変



わっていてポストは残存していません。道なりに平らな道路を歩いて行くと、小さな貯水池の南端、フェンスの内側にポストが見えてきます。茨城県ではお馴染みの簡易小型ポストです。

ここから進行方向は北へ。相変わらず丘沿いの道路を進むと、主要道路に合流します。さらに北進すると、分岐近くに神社への石段が現れます。「大山神社」という小さな神社の境内は旧第4ポストがあったところ。はっきりと記憶にも残っています。以前のコースで唯一新コースにも継承されたのがこのポスト。そのため標準サイズのおなじみのポストに出会えます。むき出しの土崖の上にあるポストはかつてなら境内から丸見えでしたが、今は草木に覆われて、目を凝らさないと確認できません。余談ですがこのポスト、開設当初のものではなく、18年前に回った時は立て替えられたばかりで、この1本だけ光輝いていました。今も赤色こそ鮮明なもの、三角頭には赤錆が目立ち、逆に最も古びたポストとなってしまっています。

## 紫陽花に埋もれて

第3ポストへのルートは2通り。私は南の丘越えではなく、平坦な北のルートを選択。これからの登りに備えます。等高線間隔が5mのため、地図から受ける印象よりはずっと緩やかな勾配ながら、このコースでは初めての坂道にまもなく差し掛かります。その先、ポストは佐白山への入口駐車場のある「千人溜まり跡」の分岐脇に立っているのですが、この季節は咲き誇る紫陽花に埋没して、ほとんど見えません。あきらめず、注意深く探してみてください。秋から春にかけては呆気なく発見できるはずですが。

## 一気に山頂へ

第4ポストは佐白山の山頂。ここは旧第9ポストと同一の場所です。舗装道路をショートカットする徒歩ルートがあり、道標に従って坂道を登り詰めて行きます。開けたスペースに到達し、さらに登ると「史跡 笠間城八幡台櫓跡」の石碑のうしろにポストが立っています。古い標準サイズではなく、こもミニポストに更新されています。

コース最高地点を経て、ここからが後半戦。第5ポストはもう1つのスタート地点である「佐白山麓公園」方面へ下ります。さほど観光客も利用しないであろう遊歩道も整備良好で快適です。渦巻き状に佐白山へ登ってくる道路との分岐の下方にちょこんとポスト

が置いてあります。

緩やかに下る道路をテンポ良く進んできます。三叉路の第6ポストは一本道の先にあるため、まず迷うことなく到達できるでしょう。

## 大造成、熱意で残ったコース

終盤の第7～9ポストの3ヶ所は、従来のコースが変更止むなしに至った新造道路と「芸術の丘」に設置されています。パーマメントコースに対する熱意が失われていたならば、そのまま廃止扱いとなってもおかしくない大造成。そこに改めてポストを設置して、こうして今もコースを楽しめることは、ファンとして嬉しい限りです。

第6ポストから南下して、大きな交差点まで下ってきます。山沿いに右折してからしばらくは、のんびりと平坦な道路を歩き、その先のT字路を左折。坂道を登ると第7ポストのある交差点に到達します。ところがなかなか確認できません。周囲を注意深く見渡すと、和風スナック「裕」の前にある植え込みのなかに赤色を発見。第3ポスト同様、夏場は繁茂した草木に埋没してしまいがち。見当たらないからといって諦めることなく探してみてください。

第8ポストへ向かう途中に、旧第1ポストがあった地点を通過します。残っているかとわずかな期待も虚しく、そこは駐車場となっていました。もちろんポストもありません。そのまま主要道路を南下すると、ポストは歩道に無防備に置かれています。愛知の新設コース「桃花台・四季の森」でもこんなポストがありました。あまりのあからさまな設置状態にちょっと拍子抜け。

最終ポストは「笠間工芸の丘」の敷地内。第8ポストからそのまま南へ進むと、左手に工芸の丘の西ゲートが現れます。すっかり整備された芝生を横切って池の端に向かうと、ちょこんと置かれたポストは遠目にもはっきり確認できるでしょう。ここ工芸の丘は、陶芸美術館、窯業指導所などからなる「笠間芸術の森公園」につくられた施設で、笠間焼の人間国宝松井康成の作品展示室をはじめ、幅広く作家の作品を集めたショップ、カフェなどの施設があり、陶芸体験(2100円～ 要予約 所要1時間45分)も楽しめます。



(笠間クラフトヒルズの web サイトより)

ゲートに戻り、新道を再び南へ向かうとゴールはもうすぐです。

所要約2時間のやさしいコースです。陶芸体験やショップめぐりなどとあわせ、陶都笠間に訪れてみませんか。

20年前の夏、御巢鷹山に散った坂本九は、母の故郷であるここ笠間をこよなく愛したそうです。柏木由紀子との拳式も、笠間稲荷で執り行われています。

(2005年7月20日踏破 大高竜亮)